令和5年11月27日

令和５年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 若松原　中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，令和５年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　調査期日

令和5年4月18日（火）

3　調査対象

小学校　第６学年（国語，算数，児童質問紙）

中学校　第３学年（国語，数学，英語，生徒質問紙）

4　本校の参加状況

①　国語　　１８４人

②　数学　　１８４人

③　英語　　１８４人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年が限られており,実施教科が国語，数学，英語の３教科のみであることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

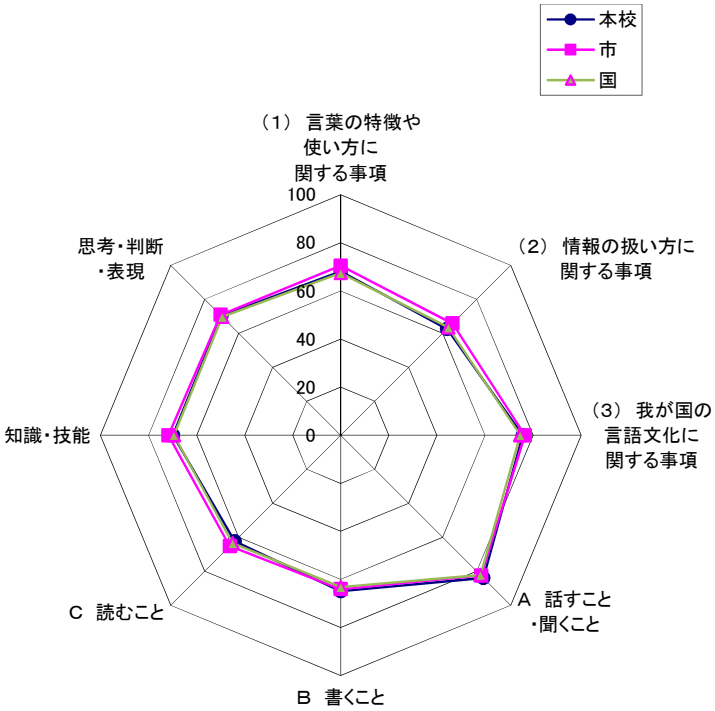
(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立若松原中学校第３学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	（1） 言葉の特徴や使い方に関する事項	68.2	70.5	67.5
	（2） 情報の扱い方に関する事項	62.5	65.7	63.4
	（3） 我が国の言語文化に関する事項	75.7	76.6	74.7
	A 話すこと・聞くこと	83.9	82.6	82.2
	B 書くこと	64.9	64.1	63.2
	C 読むこと	62.5	65.3	63.7
観点	知識・技能	69.8	71.7	69.4
	思考・判断・表現	70.2	70.8	69.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

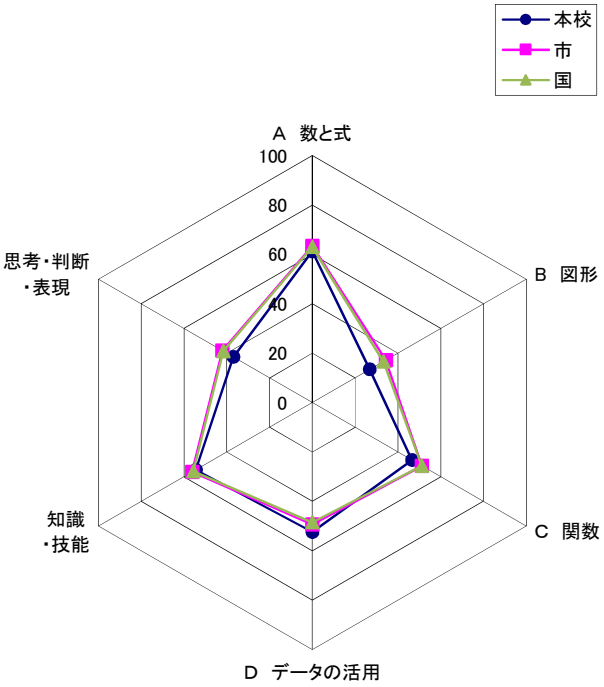
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
（1）言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は市の平均を2.3ポイント下回った。 ○文脈に即して漢字を正しく書く問題の正答率は48.4%で，国の平均を4.5ポイント上回った。 ●語句についての理解を問う問題の正答率は88.0%で，国の平均を3.1ポイント下回った。	・国の平均を上回ったものの，正答率としては決して高いものではなく，漢字テストによる定着が不十分であると考えられるため，家庭学習の充実を図り，継続的な学習による定着を促す。 ・今後は，文章の中で漢字や語句を正しく使えるように，文章を読みながら，読解の指導とともに漢字・語句の指導をしていく。
（2）情報の扱い方に関する事項	平均正答率は市の平均を3.2ポイント下回った。 ○内容のまとまりによって文章が分かれる箇所を見つけ出す問題の正答率は63.6%で，県の平均を1.7ポイント，国の平均を1.8ポイント上回った。 ●情報と情報の関係について理解しているかをみる問題の正答率は61.4%で，県の平均を4.3ポイント下回った。	・授業の中で，一人一台端末の使用や図書資料を用いた情報の収集は行っているが，情報の精選についての指導をさらに充実させていきたい。 ・「意見と根拠」など，情報同士の関係を見極め，自分の文章や話に効果的に生かす指導に力を入れていく。
（3）我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は市の平均よりも0.9ポイント下回った。 ○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む問題では，国の平均を3.9ポイント上回った。 ●文章を読んで理解したことを知識や経験と結びつけ，自分の考えを深めたり広めたりする問題の正答率は65.8%で，県の平均を3.5ポイント下回った。	・長い文章に対する抵抗感をもつ生徒や，文章を読んで知識を蓄積したり，文章と自己の経験を結びつけたりすることが苦手な生徒が多いので，文章を読み解く練習を積むことで，文章から得られるものの多さに気付かせ，自分の考えを深めたり広めたりする手段として，文章を生かせるように指導していく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は市の平均を1.3ポイント上回った。 ○聞き取ったことをもとに，目的に沿って自分の考えをまとめる問題の正答率は87.5%で，国の平均を5.0ポイント上回った。 ○目的や場面に応じて質問内容を検討する問題や，知りたい情報に合わせた効果的な質問をする問題では，県の平均を0.5ポイント上回った。	・話し合い活動や発表，プレゼンテーションなどの機会を多く設けて，話す力の育成に努めた効果が表れたと考えられる。今後も話し合い活動など自分の意見を聞き手にわかりやすく伝える場面を多く設定し，発表や説明の工夫について丁寧に指導したい。
B 書くこと	平均正答率は市の平均を0.8ポイント上回った。 ○叙述の仕方を確かめ，文章を整える問題の正答率は58.2%で，県の平均より5.1ポイント高い。 ●根拠を明確にして書く問題の正答率は71.7%で，国の平均を0.4ポイント下回った。	・授業の中で自分の考えを書かせる活動を積極的に実施してきた。効果が徐々に表れているため，今後も継続して丁寧に指導していく。 ・根拠を明確にした文章が書けるように，書くことの指導時のみでなく，読むことの指導時にも，根拠を探して考えとつなげて読み取るよう意識させることを心がける。
C 読むこと	平均正答率は市の平均よりも2.8ポイント下回った。 ○文章の要旨を把握する問題の正答率は76.1%で，県の平均を2.7ポイント上回った。 ●文章の構成や展開，表現の効果について根拠を明確にする問題の正答率は45.1%で，県の平均を4.9ポイント下回った。	・説明文の読解の授業などで説明文への抵抗感をなくしたり，授業で扱った文章の関連図書の紹介をしたりして，小説だけでなく，さまざまなジャンルの図書に触れる機会を増やしていく。

宇都宮市立若松原中学校第３学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A　数と式	61.2	63.4	63.0
	B　図形	26.8	34.3	33.2
	C　関数	46.5	51.2	51.2
	D　データの活用	52.4	49.4	48.5
観点	知識・技能	54.5	56.2	55.7
	思考・判断・表現	37.0	42.1	41.6
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

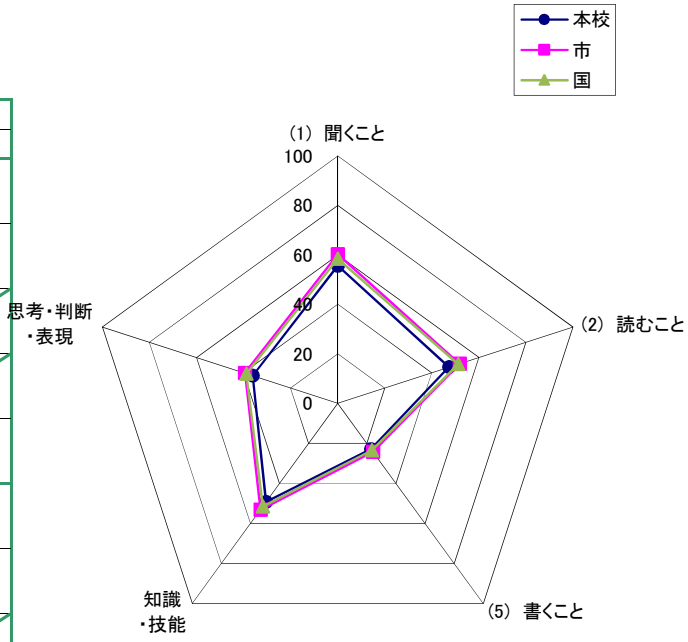
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A　数と式	○自然数を選択する問題や数を整数の乗法の計算や方程式の計算においては，市を上回るあるいは同程度の正答率である。 ●目的に応じて式変形をしたり，その意味を読み取ったりして事柄が成り立つ理由を説明する問題について市や県，国の正答率を下回っている。また，成り立つ事柄がどんなものかを見いだし，説明する問題についても，市や県，国の正答率を下回っている。	・基本的な計算や方程式については，各学年の学習時期において繰り返し練習を重ねてきた結果が正答率に現れているので，今後も継続していきたい。 ・説明する問題については，繰り返し学習を重ねているが，「この問題の場合にはこのように説明をしていく」，といったような型が決まった問題演習が多かった。今後は「なぜこのように説明することで証明できるのか」，「どの方針で説明すれば成り立つと言えるのか」，といったような証明するまでの過程もより重視していく。
B　図形	○二等辺三角形の性質を利用した証明において，正しく正答できた割合は比較的県や市と正答率が同程度である。 ●全体的に正答率が低く，市や県，国との正答率に乖離が見られる。特に2直線が平行であることを証明する記述の問題について，無回答であった生徒が全体の3割程度であった。	・三角形の合同の証明や，同位角や錯角が等しいことの練習は繰り返し学習しており，授業においても定着する様子が見られていた。反面，いくつかの学習内容が組み合わさり，既習内容を複合的に活用する力が不十分な様子が授業でも見られるので，このような問題演習も1学年のうちから継続して行い，複数の知識を活用する能力を高めていく。
C　関数	○与えられたグラフから適切に情報を読み取れるかどうかの問題について，市や県と同程度の正答率である。またグラフや式を用いて，問題解決の内容を数学的に説明する問題については市や県よりも正答率は低いもののその差は小さい。 ●反比例の意味を理解できているかどうか，またグラフが直線であるとはどのようなことか，などグラフについての基本的な内容が定着していない生徒が多い。	・1学年の比例や2学年の1次関数，3学年の2乗に比例する関数の学習においては，いずれも日常生活に関連した問題を設定し，グラフから特徴を読み取ったり，説明したりする演習を繰り返し行ってきた。今後はさらに基礎的な内容に定着を進めるとともに，自分(生徒)の考えを適切に表現できるようにさせるために，グラフの意味と読み取り方について重点的に指導をする。
D　データの活用	○全体的に市や国の正答率を上回った問題が多い。特に箱ひげ図に着目して回答させる問題については適切に回答できている生徒が，県や国の平均を4ポイント以上上回っている。 ●説明問題の無回答率23%と県や国の平均を上回っている。	・四分位範囲や累積度数など基本的な内容の定着について，授業で説明するとともに問題演習を繰り返し行った成果が見られた。一方で説明することが苦手な生徒や適切に表現できない生徒が多く見られるため，他の領域とも合わせて授業内で重点的に指導をしていく。

宇都宮市立若松原中学校第３学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【英語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	(1) 聞くこと	55.6	60.2	58.4
	(2) 読むこと	47.3	51.8	51.2
	(3) 話すこと[やり取り]			
	(4) 話すこと[発表]			
	(5) 書くこと	22.9	24.2	23.4
観点	知識・技能	49.2	53.1	51.5
	思考・判断・表現	36.1	39.4	38.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 聞くこと	聞くことの領域では，全国と比べて2.8ポイント，市と比べて4.6ポイント低い。 ○聞き取った情報の内容にあうものを選択する問題の正答率は，全国や県とさほど変わらない。また，正確に情報を聞き取る問題の正答率はどの問題も50％以上である。 ●無回答率が全国や県と比べて高い。会話文や説明文を聞き取ったり，まとまった文章から必要な内容を選択したりする，要点を捉える問題の正答率が低い。	・短い英文のやり取りについては，帯活動でさまざまなトピックに対しての会話活動を取り入れているため，教師の英語を聞き取ったり，友達と会話する中で情報を理解したりすることはできている。今後も継続して即興での英語でのやり取りを取り入れていく。一方でまとまった英文を聞いて理解する力を向上させるために，ALTのまとまった話の内容を聞く機会をさらに作っていく。また，正しい音声を認識できていない生徒も見られるため，正しい発音での音読に力を入れていく。
(2) 読むこと	読むことの領域では，全国と比べて3.9ポイント，市と比べて4.5ポイント低い。 ○事実や考えが書かれた英文を読み，考えを表している英文を選択する問題では県の正答率を上回っている。英文を読み，内容に適したグラフを選択する問題の正答率は全国や県とさほど変わらない。 ●無回答率が全国や県と比べて高い。英文を読んで概要を捉える問題の正答率が低い。	・授業では新出の単語や分からない単語を調べることで，内容の理解を深められる生徒や分からない単語が出てくると文章を読むことに抵抗を感じてしまう生徒が多い。普段の授業から，分からない単語にとらわれず，まずは文章全体の概要を捉えられるよう指導していく。概要をつかんだ上で筆者の最も伝えたいことや要点を考えさせ，理解力の向上を図りたい。社会的な話題についての知識も乏しいので，他の教科との関連を意識させていく。また，読んだ後には内容についての感想や自分の意見を伝えあう活動を実施し思考力をつけていく。
(3) 書くこと	書くことの領域では，全国と比べて0.5ポイント，市と比べて1.3ポイント低い。 ○どの問題も県の正答率を上回る正答率である。特に，学校生活について説明する問題では，全国より1.8ポイント，県より2.4ポイント正答率が高い。 ●聞くこと，読むことでは全国や県と比べて無解答率が同程度であるものの，問題によっては4分の1の生徒が無回答であった。	・会話したことや，自分の考えや意見を書くことは抵抗なく取り組める生徒が多いが，書けない生徒の中には，何を書いたらよいのかが分からないという生徒もいるため，様々な知識を身に付け，自分の考えや思いを伝える場面を多く取り入れていく。さらに，そう思う理由を具体的に表現できるよう指導していく。また，多くの英文に出会う中で覚えておきたい英文をためていけるよう，ノートの活用を続けていく。スペルの正確性にこだわりすぎると意欲低下を招くので，まずは生徒の表現したいという気持ちを大切にしていく。

宇都宮市立若松原中学校 第３学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○本校生徒の「朝食を毎日食べていますか」の質問の肯定割合は92.4%と高く，全国平均と比較しても1.2ポイント高い。「毎日，同じくらいの時刻に寝ていますか」の項目でも肯定割合は81.0%と高く，県平均を1.0ポイント，全国平均を3.0ポイポイント%上回っている。今後も家庭との連携を図って生活習慣の定着を推進していく。

○「自分には，よいところがあると思いますか」の質問で肯定割合が88.6%と高く，県平均と比較して6.1ポイント高く，全国平均と比較しても8.6ポイント高い。また，「先生は，あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問でも肯定割合が90.2%と，全国平均を2.9ポイント上回っている。自他ともに認めあい，自己肯定感を高める取り組みが定着しつつある。今後も本校生の良さを発揮できるよう指導していく。

○「いじめは，どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問で，肯定割合が98.9%で，県平均よりも2.3ポイント高く，全国平均と比較しても3.4ポイント高い。今後もいじめアンケートを含め，早期対応に努めるとともに，定期的にいじめに関する指導を継続していく。

○「困りごとや不安がある時に，先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問で，肯定割合が72.8%と高く，県平均よりも3.6ポイント高く，全国平均と比較しても6.4ポイント高い。教育相談の充実と，多くの教員がケースに応じて連携して対応することを今後も続けていく。

●「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問の否定割合は40.2%と高く，県の否定割合よりも2.3ポイント高い。家庭での勉強時間は休日に「30分以上1時間より少ない」が平日を上回るものの，「全く勉強しない」生徒が平日で3.8%，休日で7.6%存在する。学習習慣の定着を家庭と協力して支援していく。

●「学校の授業時間以外に，普段，1日当たりどれくらいの時間，読書をしますか」の質問で「全くしない」の回答が32.1%と高い。「読書が好きですか」の否定割合も31.5%と高く，「全く新聞を読まない」生徒も87.5%存在し，活字離れが見られる。図書委員会の啓蒙活動や朝の読書を通じて読書の習慣の定着を図っていく。

●「学習の中でPC，タブレットなどのICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の肯定割合が90.2%である中，その活用は，意見を交換するための活用，自分の考えをまとめる場面での活用，発表する場面での活用となると肯定回答が低い。活用方法についても校内研修をを重ね，効果的な活用の充実を図っていく。

宇都宮市立若松原中学校（第３学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
ICT機器の利点を生かし，主体的，対話的で深い学びを実現するための授業改善を図る。	授業公開ウィークを実施するなど，校内研修の機会を設け，ICT機器を活用した授業を，互いに公開，参観し合うことで，ICT機器の効果的な活用を促進し，職員の授業力向上を図る。	「授業で，コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の質問に対し昨年度は「週１回以上」の回答は89.4%（全国比＋8.8ポイント）で一昨年度の10.4%に比べて格段に上がった。今年度も授業公開ウィークや校内研修などを実施することで，94.0%（全国比＋6.5ポイント）とさらに上昇した。今後も幅広く授業で活用していく。
学習意欲の向上を図るための教材，教具の工夫改善	ICT機器を積極的に活用し，調べ学習や，学び合いの機会を増やすことで，子供の学習意欲を高めつつ，基礎基本の定着と記述等に粘り強く取り組む態度を育む。	国語や英語では，解答を文章で書く問題，数学では，説明する問題において，「全く解答しなかった」が国語で0.5%（全国比－2.1ポイント））。英語で，9.2%（全国比－4.9ポイント）。数学で，2.7%（全国比－1.4ポイント）であった。教科による差はあるものの記述等に粘り強い取り組む様子が見えてきつつある。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「1日当たりどれくらい家庭学習しますか」の質問に，平日で2時間以上の割合が32.1%（全国比-1.6ポイント），休日で3時間以上の割合が16.3%（全国比−2.0ポイント）であり，昨年度と比較すると全国との差は縮んでいる。今後，家庭学習の量と質が課題である。	学力定着のため，家庭学習の習慣化と質の向上	授業とリンクし考えさせたり，調べさせたりする活動を取り入れた宿題を積極的に出すことで，家庭学習の成果を実感させ，自主的に取り組もうとする意欲を高める。授業と家庭学習をつなぐため一人一台端末のAIドリルを活用し，個に応じた課題で学習後は，家庭に持ち帰って家庭学習の充実と習慣化を図る。